

中海・宍道湖沿岸環境検討会

【設置趣旨】

中海・宍道湖は古来より人間活動による埋立、浚渫、湖岸の人工化が盛んに行われると共に、近年、流入河川による汚濁負荷量の増加や水質悪化が進行して来ました。そのため、中海・宍道湖の水質は観測が始まった昭和48年頃から環境基準を満足していない状況が続いており、赤潮やアオコ等の富栄養化現象の発生、汽水域特有の塩分成層による底層の貧酸素水塊の拡大など、水質悪化、生物生息環境の悪化が顕著になっています。

中海・宍道湖の水環境を改善するためには、流入負荷の削減を第一優先すると共に、底泥からの栄養塩類溶出抑制、湖の生物活動による浄化能力の向上など総合的な施策を展開していく必要があります。

【目的】

本検討会は、中海・宍道湖の水環境改善を目的とする。水環境の改善とは、水質、水中・水辺の動植物、底質、景観を含む調和のとれた湖沼環境の改善を目的の範囲とする。

特に湖沼の中でも、動植物の生息環境として重要な沿岸域の環境改善を実施するため、生物、水質、底泥、流動等総合的な知見により改善技術の検討を行う。

【実施方針】

- ① 生物の専門家によるアドバイスを受けながら、中海・宍道湖の沿岸環境改善計画を作成する。
- ② 環境改善目標を達成するため、生物の専門家と湖沼管理者との意見交換を行い課題の抽出、解決を行う。環境改善の目標は以下の通りとする。
 - 生物の生息生育場となる浅場造成基盤の安定
 - 抽水植生帯の再生、沈水植物、海藻類など藻場の再生
 - 魚介類の生育環境改善
 - 底生生物、水際昆虫、など本来湖沼の持つ生物多様性の再生
 - 上記沿岸環境改善の技術的手法の開発、知見の集積
- ③ 事業の評価を行うと共に、改善点の整理を行う。

【メンバー】

□ 専門家メンバー(専門家メンバーの合意を得てメンバーの追加を可能とする)

- ・ 島根大学エスチュアリー研究センター 客員教授 國井 秀伸
- ・ 島根大学非常勤講師 佐藤 仁志
- ・ 元島根県内水面水産試験場長 中村 幹雄
- ・ 鳥取大学 副学長 裕見 吉晴
- ・ 元宍道湖自然館館長 淀江 賢一郎

(敬称略 五十音順)

□施工者メンバー(役職)

- | | |
|-----------|---------|
| ・ 出雲河川事務所 | 事務所長 |
| ・ 出雲河川事務所 | (技)副所長 |
| ・ 出雲河川事務所 | 工務課長 |
| ・ 出雲河川事務所 | 河川環境室長 |
| ・ 出雲河川事務所 | 中海出張所長 |
| ・ 出雲河川事務所 | 大橋川出張所長 |
| ・ 出雲河川事務所 | 平田出張所長 |

オブザーバー

- ・鳥取県 生活環境部 **くらしの安心局 水環境保全課**
- ・鳥取県 衛生環境研究所 水環境対策チーム
- ・島根県 農林水産部 水産課 漁場環境・内水面グループ
- ・島根県 環境生活部 環境政策課 宍道湖・中海対策推進室
- ・浅場モニタリング業務を担当するコンサルタント

事務局 出雲河川事務所 ○**計画課(河川環境室)** 工務課